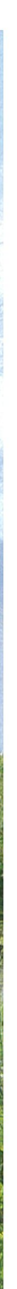


み ず べ
水辺にたたく民家
その風土と生活を求めて



不詳(川と民家) 年代不詳

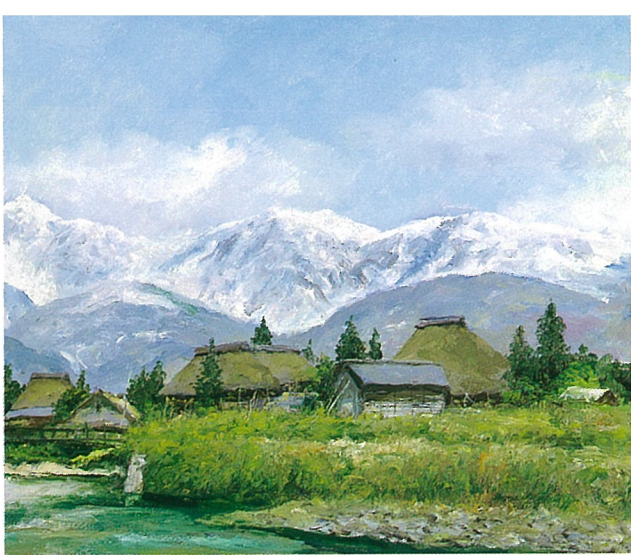
2000年7月1日[土]→9月24日[日]

開館時間=午前10時～午後6時(入館は5時30分まで) 休館日=毎週月曜日(ただし祝日と重なった場合は翌日)
観覧料=一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円) 65歳以上及び障害者の方100円(80円)
()内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581



川と民家 年代不詳



一隅の風景 習作(茨城県東茨城郡大洗町) 1975年



不詳 年代不詳

水辺にたたずむ民家

その風土と生活を求めて



不詳(食事風景) 1955年頃

戦前にはルーブル美術館で模写などを通じ、西洋美術に深く触れながら画家としての地歩を固められてきた向井潤吉先生が、草屋根の民家という題材に出会い、それを強く意識され始めたのは、戦後間もない昭和20年の秋のことでした。

戦時中には陸軍報道班員として戦争記録画の制作に従事し、戦争という異常な状況の中でさまざまな出来事を先生は見聞されてきました。日本の伝統的な住まいである草屋根の民家に、そして民家を中心とした人々の営み、さらにそのすべてを包み込み風土というものに、先生の心が傾倒していったことの背景には、戦争によって触発された複雑な心情があったのではないのでしょうか。

私たちが向井先生の民家シリーズから感じ取るイメージは、“山村の民家”が中心となりますが、先生が歩かれ取材された地域はじつに幅広く、人々に生活の糧を多々もたらしてくれる川辺や海辺へと、その旅は広がっています。

日本には、それぞれに彩り豊かな四季があります。その穏やかな風土の中にあっても、地域や季節によってさまざまな表情をみせる民家と人々の生活に、向井先生は強く関心をもたれ、そして、そのことをありのままに描くという大きなテーマを終生貫かれたことを、私たちは諸作品を通じて感じることができます。

このたびの展覧会では、つねに現場にイーゼルを立て、光と風を感じながら制作されてきた一連の民家作品の中から、川辺や海辺にある民家と、そこをより所として生きる人々に焦点をあて、油彩作品、また卓越した素描力を堪能していただけのスケッチの数々をご紹介します。

早春の水路(埼玉県川越市下新河岸) 1982年

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】駅西口 下車／徒歩10分
東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車／徒歩17分
東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車／徒歩3分
東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車／徒歩3分
東急バス(渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分
東急バス(渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分

